



(新学章)

楠の葉

佐賀大学同窓会報 第6号

発行日 2007年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/>

編集者 有馬 進
代表者

~ Creative 21 母校を考える ~

佐賀大学について語り合う集会“クリエイティブ21”は、20回を超えた。本紙では、文化教育学部、農学部及び地域学歴史文化研究センターの部局長を囲んで開催した第19回から第21回の内容を紹介する。



文化教育学部本館

第19回「文化教育学部の現状と課題」

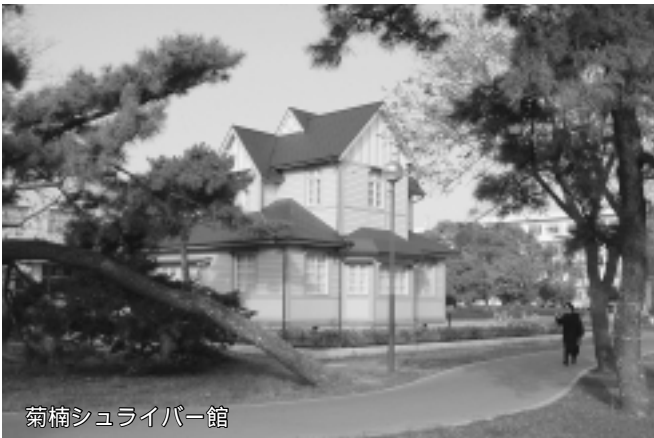
7月28日に撫尾知信学部長が、学部の現状を説明し、文化教育学部と経済学部を融合する新たな文系学部構想を紹介した。討論の部では、教育者としての知識だけでなく体力や品格を養うカリキュラムが要望された。

第20回「農学部の現状」

9月29日に田代洋丞学部長が、学科新設ならびに棚田復元や食品廃棄物循環利用などの地域貢献事業を紹介した。討論の部では、佐賀農業のさらなる発展に向けた品種改良や栽培技術の改善が要請された。



農学部本館



菊楠シュライバー館

第21回「地域学歴史文化 研究センターについて」

11月24日に宮島敬一センター長が、不知火寮跡地の菊楠シュライバー館（旧制佐高外国人教師宿舎）に開設した同センターの概要を紹介した。討論の部では、佐賀の「温故知新」を通じて母校のあり方を示して欲しいとの期待が寄せられた。



第14回佐賀大学福岡地区全学同窓会

「オリヤ、オリヤ、オリヤー、.....南に遠く！
...」昔の若者十数名が、ステージ上で、片足を交互
に上げ踊りながら、声を張り上げ唄っている。

平成18年7月14日(金)第14回佐賀大学福岡地区全学
同窓会での一コマです。

今回の同窓会は、4年ぶりに開催され、会場となっ
た「ソラリア西鉄ホテル」には、新学章の旗の下に、
27才～75才までの老若男女100名が集結し、活況を
呈しました。ご来賓には、佐賀大学同窓会の久間会
長他5名を迎え、大学や同窓会の近況報告等が行わ
れました。また、今回の同窓会では、新支部長に清
村克行氏が選出され、また、実行委員会からの提案
で、「次回からの毎年開催」、「実行委員の一部当番
年制」も承認されました。

四年ぶりの再開とあって、祝宴では大いに盛り上
がり、前出の寮歌斉唱や最年長者・最年少者のス
ピーチ、女性陣のスピーチに、飛び入りスピーチま



で加わり、時を忘れ
て参加者全員が楽し
いひとときを過ごし
ました。

19年度も同様な時
期に開催する予定で
あり、参加者一同再
会を約して帰途につ
きました。

鶴田 隆之(経済・54卒)

佐賀大学同窓会 佐世保市部(むつごろう会)

平成18年9月2日(土)佐世保駅前プラザホテル「鯉
太郎」にて第14回「むつごろう会」を開催した。

来賓4名、会員28名計32名の出席であった。この
ところ若い会員や女性会員の出席が見られないのが
淋しい。時期的にも新学期早々ということもあって
現職会員の参加が少なかったとも思われ、その点、
検討の必要があると感じた。

会合は総会、講演会、宴会の順でとり行われ、総
会では、会長十時 淳の後任として副会長の杉原義
秋氏(教育昭31卒・一中)が選任され、副会長とし
て川島達也氏(教育昭43卒)を、監査として古賀久
子氏(経済昭56卒)が選任された。

総会の後、郷土史家で本会の副会長でもある前川
雅夫氏(文理昭46卒)が『佐世保の戦後』と題して
講演をされた。

その要旨は、
佐世保が軍港都
市になり次第に
地方中核都市へ
と成長発展して
いく過程を資料
と共に具体的事
例を挙げながら
丁寧に話をされ



平成18年9月2日
於：佐世保市プラザホテル「鯉太郎」

た。佐世保が基地であるが故に背負わ
された宿命、高度経済成長に伴う歪み、
道路網の整備と拡充に伴う物流の変化、
大型スーパーの進出による商業圏の縮
小と商店の空洞化など、様々な問題が
生じていることなどについて大変示唆
に富んだ講演であった。

さて、来賓の方々には、佐賀大学同窓
会々長久間善郎氏(文理昭37卒)同副会長
田中正和氏(理工会長昭48卒)同副会長梅崎
正道氏(楠葉会長昭37卒)同理事小池政雄氏(楠
葉副会長昭34卒)の4氏である。

「むつごろう会」顔なじみの福岡支部大谷希幸氏
は、病気療養中ということで今回欠席された。氏の
一日も早いご快癒をお祈りしたい。

ご来賓各位からは佐賀大学の現状と同窓会の活動
状況が報告された。その中で、同窓会が大学の運営
にも参画するようになり、学生の修得できる講座と
して『キャリアデザイン(自己発見講座2単位)』
が提供されているという報告はまさに画期的なもの
として受け止められた。

最後は待望の宴。全員が今を語り昔を語り時の経
つのを忘れ会場は談笑につつまれた。

「むつごろう会」は、昭和32年(1957)に設立され
来年は50周年という節目の年を迎える。法人として
の新生佐賀大学ならびに佐賀大学同窓会と共に、
益々発展することを祈念してやまない。

十時 淳(文理・30卒農)

鳥栖・三神支部総会及び第39回「なんでん塾」

平成18年10月7日、鳥栖市のホテルピア二鳥栖に
おいて支部総会及び第39回「なんでん塾」を開催し
ました。元佐賀大学学長の楠田久男塾長、佐賀大学
同窓会久間善郎会長をはじめ三学部の同窓会会長を
来賓に迎え、それぞれ大学の近況、同窓会の近況等
について報告をいただきました。

総会において、急逝された小柳義弘支部長の後任
として、不肖、鈴木正美(48年経済卒)が、副支部
長に高尾浩伸君(58年経済卒)が選出されました。

総会に引き続き、なんでん塾の開会にあたり、楠
田塾長の「卒寿」をみんなでお祝いし、当日の講師
である田中幸男先生(久留米大学名誉教授・文理29
年卒)によるゼミナールに入りました。

毎回健康に関するテーマで講演いただく先生の今
回の演題は～補助食品ブームをどう見るか～サブタ
イトルとして「このごろ気になる科学のようなエセ
科学」と題して、興味深い話をいただき、日頃気にな
っている事についての質問がつづき、先生の解説
に納得したところでした。

その後懇親会に入り参加者の近況報告と、残念ながら
今回参加できなかった50名の同窓生の方からの
近況報告が紹介されなごやかなうちに会を終了する
ことができました。

次回の開催を平成19年4月7日に決定し、同窓会
の益々の発展を祈念し会を閉じたところです。

支部長 鈴木 正美(経済・48卒)



大分県支部総会・懇親会



佐賀大学同窓会大分県支部総会
平成18年11月11日 於：大分第一ホテル

大分県支部の総会・懇親会は毎年秋に行っていますが、本年は平成18年11月11日(土)・大分第一ホテルで開催しました。本部より副島同窓会事務局長ら3名の来賓を迎え、大分県下で活躍している会員31名が参加しました。島田達生会長(農学・42卒)の挨拶に続いて、来賓からは佐賀大学と同窓会の近況が報告されました。3名の初参加者も加わり、昔話や近況について交歓するなど大いに盛りあがりました。

なお、役員改選では会長は留任、事務局長に牧野巧氏(理工・50卒)、事務局次長に清末義信氏(農学・59卒)が選任され、新しい活動が期待されます。

前事務局長 浅川 和憲(農学・44卒)

東京支部総会・懇親会

恒例になった二年に1回の東京支部総会は、11月14日佐賀から小島副学長、久間同窓会長外4名のご来賓を迎え、第1回卒業生から3年前の若手まで70名余の出席で開かれました。

副学長から母校の近況・活躍ぶりが各種データを基に報告され、新しい方向と問題も示されました。

同窓会長からは、5学部体制移行後の大学経営への新たな、積極的関わりでの成果と課題が報告されました。出席会員も新生佐賀大学の活躍ぶりに安堵し、更なる発展を期待した一刻になりました。

第二部の懇親会は、フリードリンクで久しぶりの佐賀弁の輪が広がり、旧交を暖め、新しい交流が生まれ、70代の元気な先輩からは活力を貰いました。

今回は、羊かん、焼酎、嬉野茶、丸房露、神崎素麺等『佐賀の香り』を景品に福引を催し、出席者全員に御土産にしてもらいました。

開会から2時間半、和田さんの「巻頭言」が会場を震わせ、寮歌に乱舞も加わって最高潮に達し、「楠の葉の」の大合唱で幕を下しました。出席者は江戸の花街の面影を残す神楽坂の会場を後にしました。

東京支部としては、若い会員や女性会員の出席者をいかにして増やすか、会員への広報、幹事の確保等々永年の懸案事項を拘えています。

会員の皆さんの御協力と本部の御指導について改めてお願いし、今回の総会報告を終わります。

東京支部長 石橋 義麿(農学・34卒)



筑後支部総会・懇親会

平成18年11月18日午後6時より、柳川市「ランヴィエール勝島」で開催した。本部より佐賀大学同窓会会長久間善郎氏、文化教育学部同窓会会長宮島豊秀氏、楠葉同窓会会長梅崎正道氏、副会長小池政雄氏、理工学部同窓会副会長椿忠彦氏を迎え、全学同窓生27名が出席して盛会であった。特に今回は大坪純夫(文理・30年卒)氏と木原良一(文理・30年卒)氏のご尽力により、初めて(旧)佐賀医科大学63年卒業の辛島美保子さんに出席していただき一段と総会が盛り上がりました。次回以後も(旧)佐賀医科大学卒業の方にも参加をお願いしていくつもりです。久間会長から佐賀大学及び大学同窓会の近況報告、又、梅崎氏、小池氏、椿氏からは各学部の同窓会の現況等について話をいただいた。

又、筑後支部副支部長の秋原泰男(文理・38年卒陸上競技部OB)氏より佐賀大学2年陣内綾子選手の活躍について報告があった。(国体成年女子八百メートル優勝)

懇親会の席では、出席者が自己紹介、近況報告を行い、酒盃を交わしながら楽しく歓談した。

12月3日の世話人会において佐賀大学同窓会筑後支部旗を作製することを話し合い、平成19年に旗開きをすることにしております。



平成18年度佐賀大学同窓会筑後支部総会
平成18年11月18日 於：勝島

支部長 松葉 萬藏(文理・39卒)

北九州支部同窓会の開催

12月1日に2年ぶりに支部同窓会を開催しました。本部から久間善郎会長、副島昭十朗事務局長、光岡正登副理事、江副覚理工学部同窓会会長代理、また、福岡地区支部の清村克行会長代行に出席していただきました。

会場は、今までは小倉で開催していましたが、世話人の私、橋本が18年度から勤務している関係から、八幡西区黒崎の繁華街からやや離れた池公園内の北九州ハイツとさせていただきます。

最初に佐野博之(昭和36年入学法律)支部長の退任に伴い、後任に私、橋本が選任されました。微力ですが、よろしく願います。

支部の出席者は15人と少なかったのですが、初めての参加の方もあり、久しぶりの再会に話が弾みました。

そして、懇親会で一人ひとりによる自己紹介では、皆さんの「山あり谷あり」の人生や近況の報告があり、非常に有意義な同窓会となりました。

二次会は、ハイツの宿泊室において5~6人で焼酎を飲みながらの座談会となりました。

橋本 朋雄(経済・44卒)

学部教員、附属学校で授業実施

学部と附属の共同研究の充実を目指す

本学部では3年前から、中期目標の下、学部と附属学校園との連携を深め、共同研究を推進していますが、初期2年間をかけて基本的な方向付けをし、本年度から具体的な活動を開始しています。

私たちの計画の中には学部の教員が附属学校の授業を経験し、附属学校の教員が学部の授業を担当するというものがありますが、これはもちろん教員養成は両者の深い理解連携が必須との思いがあってのことです。

ただ、附属の教員が学部の教科教育法などの実地指導講師や実習の事前、事後指導講師として係わることは比較的実行しやすいのですが、大学の教員が附属学校で授業をするということは、全国的な実情からみても、言うは易し行うは難し、というところでしょう。

本学では、その難しいことに挑戦しようというわけです。

本年度になって、附属小学校では、すでに心理の網谷講師が6年生3クラスで「こころの授業」を実施しています。

また、11月29日には、本学部の陶芸教室の田中

(右)講師が、自作のオブジェや器を教室に持ち込んで、ゲストティーチャーとして4年生の岩永教諭のクラスで2コマ続きの鑑賞授業を展開しています(写真)。

「こころの授業」も「陶芸鑑賞の授業」も子どもたちにとっては非常に充実した鮮烈な授業となったようです。

また、陶芸鑑賞の授業設計は栗山助教授、田中講師、岩永教諭、松尾教諭、前村の5名で担当しました。授業分析結果等については学部内の冊子に発表の予定です。

なお、附属小学校では2月13日(火)と2月16日(金)に公開授業をいたしますが、13日は大学との連携授業、16日は幼小中の連携による授業を実施の予定です。

13日の大学との連携授業は現在のところ、6~7名の大学教員が、図工、音楽、社会、理科、体育、家庭で実施の予定です。

算数の授業については都合により別の日に実施の予定です。

私たちの学部と附属学校との共同研究は、教員養成との絡みもあってこうした実践をするわけですが、

すべての学校でその学区域にはさまざまな職人さん、芸術家などの専門家がいますから、そうした人材を学校がどう活用していけばいいのかという点についても、私たちの活動は示唆を与えられるものと考えています。

私たちの実践に対して、多くの方々に関心を持ってくださることを期待しています。

文責：前村 晃(教育・45卒)



ちょっと覗いてみてください



楠葉同窓会のホームページを紹介します。構成は①HOME ②会則、③役員、④会報、⑤活動状況、⑥同窓生の広場、⑦リンク、⑧お問い合わせ、の8項目から成っています。

運営は副会長の原邦彦さんを筆頭に理事の江口洋一さん、坂本裕三さんの3人で頑張っています。

最も力を入れたいのが「同窓生の広場」です。現在は紹介原稿(サンプル)として楠葉同窓会毎年の最大の行事である総会・懇親会の模様を掲載しています。楠葉同窓会会員の皆さんの投稿をお待ちしています。

なお、他の学部同窓会HPにも同様の企画がありますので、お互いに盛り上げましょう。

「会報」は毎年度2回発行しており、HPには04年度以降を掲載しています。06年度からの新しい企画として85から「ゼミナールの紹介」のタイト

ルで連載をはじめました。写真と原稿をお願いしていますが、ゼミに入るための条件があったり、グループで研究や論文を書き上げる、という後輩のみなさんの苦労しながらも楽しんでいるゼミの様子がうかがえる内容となっています。お楽しみに。

「活動状況」では、同窓会名簿の取り扱いについてのお願いを掲載しています。個人情報保護の観点から、その取り扱いはどの学部でも同じですが、お互いに注意しましょう。

全国各地の同窓会支部が活動されており、懇親会のもようは「支部だより」として『楠の葉』『なんよう』に掲載されていますが、誌面の都合で小さい写真1枚と申し訳なく思っています。この点はHPの力を発揮できるのではと考えています。

文責：徳永 進(経済・49卒)

新医師臨床研修制度の導入 - その後

平成16年の4月より、卒後臨床研修が必修化された。研修医は2年の間に、少なくとも、内科・外科・救急・小児科・産婦人科・精神科などをローテートすることになった。この制度の導入により、今まで以上に、幅広い、基本的な臨床能力を持った医師が育つことが期待されている。ところが、新制度導入により、大学病院で研修を行っていた研修医数が全体の7割から5割に減ってしまい、さまざまな波紋を呼んだ。

「大学病院ではありふれた疾患は診られないし、初期対応も学べない」という人もいるが、医学生への教育や研修医の労働環境を改善して来なかったことも、大学病院離れに関係していると思われ、大学病院にいる者として、大いに反省し、その改善に努めているところである。

研修医の大学病院離れにより、労働力としての研修医が減り、大学内の医師を確保するためには、派遣している医師を大学に戻さざるを得なかった。その結果、大学の医局からの派遣に依存度が高かった病院では、医師不足に陥った。引き上げた大学も、引き上げられた病院も、「新医師臨床研修制度」を悪者にし、「新医師臨床研修制度の導入に伴い、医師の地域偏在という社会問題が起こった」と言った。

また新制度になって、医師の診療科の偏在が起こった、とも言う人もいる。研修医が実際にローテートしてみてから、「この科はきつい」とか、「この科はオンオフがはっきりしている」とか、確かによくわかるようになった。入局する医師のいない診療科からは、「ローテートしてきついと、最近の若い医師は入局しない」という嘆きが聞かれるようになった。

しかし私は、以上のような医師の偏在に関しては、「新医師臨床研修制度が原因」だとは思っていない。どこに、どのような(何科の)医師が、どれくらい必要か、ということ、きちんと議論して来なかった「つけ」と、労働基準法から極端にかけ離れた医師の労働環境を改善する努力を怠ってきた「つけ」が、「新医師臨床研修制度」の導入をきっかけに顕在化した、と考えている。平成11年の患者取り違え事故に端を発し、医療の質と安全が社会から問われるようになった。平成10年の研修医過労死に関して、

平成17年に「研修医は労働基準法上の労働者に当たる」とする判断が下された。そのような時代に、必然性を持って、卒後臨床研修が必修化されたわけである。新制度を悪者にするのではなく、今こそ、高い視点で、日本の医療を考える時期に来ている。

私が思う今の制度の問題は、むしろ、これだけ多くの診療科をたった2年の間に必修とした点から起こってきた、「うつ状態の増加」と、「プロ意識の低下」である。「自分のペースで仕事ができない、不規則な生活、周囲の期待、責任が大きい、まとまった休養がとりにくい」という状況に、「頻繁に環境が変わる」という状況が加わり、非常にうつ状態になりやすい環境となってしまった。「プロフェッショナルリズム(プロ根性)」を学ぶには、従来の徒弟制度の医局は、非常に良かったと思われる。現在は、将来自分のところに「来ない」研修医を教育することのほうが多いため、どこまで厳しく指導してよいかわからなくなってしまっている。研修医も、多くの指導医と接することはあっても、表面的であるため、自分のお手本になるような先生(ロールモデル)をうまく見つけることが出来なくなっている。

皆が気づいていない良い点をあげたい。共通の「専門用語」を用いながら広い分野のプレゼンテーションができるということと、忙しい研修医時代を共に戦った同胞の存在である。旧制度では、診療科が違えば、共通言語で患者の情報をやり取りすることもなく、一緒に食事をすることもなく、段々疎遠になっていった。新制度では、2年間は、研修医同士が、相談し合い、愚痴をこぼしたりすることが可能である。苦楽を共にして強まって行ったつながりは、将来困った時に、助けてくれる大きな力となるであろう。

最後に、指導医の労働環境の改善がなされなければ、この制度を実りあるものとすることはできないということ、その労働環境を改善するのは我々自身であること、そして改善を待っている時間的な余裕はないことを付け加えたい。新制度の導入は、医師が自己と家庭を犠牲にして働く時代の終わりも告げたのである。

佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター専任副センター長(講師) 江村 正(医4)

卒業生へのメッセージ

5

知能情報システム学科の近況報告


 知能情報システム学科
 学科長 山下 義行

知能情報システム学科(情報科学科)卒業生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。

既にご存知の方も多いと思いますが、佐賀大学が国立大学から国立大学法人へと生まれ変わり、それと時を同じくして本学科も様々な面で変わりつつあります。本学科が平成15年JABEE認定を受けたことは多くのメディアで取り上げられました。そういう派手なニュースではありませんが、学科の近況として本稿では入試について二つ報告いたします。言うまでもなく入試は学科の将来像を決める重要な要素ですから、卒業生のみなさんには是非とも知っておいていただきたい事柄です。

まず平成17年度から推薦入試(定員2名)を始めました。初年度(17年度)こそ受験者は少なかったものの、今年度は定員の5倍近い高校生が受験しました。この制度ではいわゆる5教科の筆記試験では量りきれない資質を持った学生の入学を期待していますが、実際、国家試験に合格したり、ソフトウェア・コンテストで入賞した学生が多数応募しました。学科に新しい風を吹き込んでくれるものと期待しています。推薦入学者の定員枠を拡大することは最近多くの大学で積極的に行われており、個人的には本学科でもさらなる定員増が必要ではないかと考えております。

もうひとつは大学院博士前期課程(修士課程)の定員増です。これまで10名だった定員が今年度から15名に増えました。現在のIT技術はますます高度複雑化しており、学部だけの知識/技能では十分とは言えません。日本のIT技術者は慢性的に不足し

ており、経済産業省のみならず文部科学省も解決に向けて動き始めました。定員増はその流れのひとつとも言えますが、修士への進学枠を拡げることは学科教員スタッフの長年の悲願でもあったため、たいへん喜んでおります。これと同時に修士課程の教育カリキュラムをより体系的に整備する予定で、現在検討を進めています。これによってより充実した高度な教育をより多くの学生に提供していきます。

大学を取り巻く環境はかつてない速さで変化しておりますが、学科スタッフ一同一丸となって着実に難局に取り組んでおります。最後になりましたが、同窓会の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念いたしております。



同窓生の皆様へ



農学部同窓会
会長 北川 行俊

私は、去る18年7月に開催された第22回農学部同窓会総会において、前任の福島会長に代わり新しい会長に選任されました。これまで地元でいながら同窓会活動に積極的に参加してこなかった付けが回ってきたと思い、今後2年間精一杯努力いたしますので、会員の皆様のご指導・ご協力を心からお願いいたします。

さて、皆様ご存知のとおり、佐賀大学は平成16年4月1日から国立大学法人として発足し、世界で、日本で、そして地域で存在感のある魅力あふれる大学を目指して様々な変革に取り組まれております。

農学部においても、18年4月からはこれまでの2学科(生物生産学科と応用生物科学科)を3学科(応用生物科学科、生物環境科学科及び生命機能科学科)に改組されると共に研究棟等の改修が進められるなど、最近の社会情勢の変化等に対応して教育・研究の一層の発展が図られております。

このような大学の変革に呼応して、同窓会としても母校の更なる発展に寄与するためこれまで以上に会員相互の親睦はもちろん、大学との連携を強化し

ていく必要があります。

このため、現在、同窓会役員会において次のことを重点に鋭意検討を進めているところであります。

一つは、農学部同窓会の組織体制の充実・強化を図ること。同窓会から会員への各種情報の提供や各種行事への会員の積極的な参画(例えば、在校生への「キャリアデザイン(自己発見講座)」や「就職ガイダンス」の講師として)をはじめ、組織として県内の4支部、熊本県の1支部の充実、学年毎の同期会や学科毎の同窓会への支援策等の検討。

二つは、これまで同窓会が行う事業は、会報及び名簿の発行が中心であったものを見直し、卒業生に対する同窓会長賞の授与など新規事業等の検討。

三つは、以上の検討に伴う農学部同窓会会則の見直し等。

どうか、会員の皆様には母校佐賀大学の発展と同窓会の活性化のため忌憚のないご意見やご提案等を役員又は同窓会事務局宛てお寄せいただきますようお願いいたします。



7月22日(土)に同窓会総会が開催された。また、総会に先立ち、佐賀大学公開シンポジウム「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」が開催され、活発な討論が行われた。

第22回農学部同窓会総会 およびシンポジウムの開催



(写真は公開シンポジウムの様子)

同窓生の職場 ⑥

水上村役場 住民福祉課 保健師

平成9年に看護学科第1期生で卒業し、人口約2,600人、高齢化率約35%、平成17年度出生数20人、宮崎県と隣接する水上村に就職しました。少子化に少しでも貢献しようと今年の8月末に第3子目を出産し、現在は育児休業中で主婦と育児に専念し仕事のことは頭の片隅に追いやっています。

今回は保健師の仕事について、大変役不足ではありますが少し紹介させていただきます。

市町村の保健師は保健衛生、介護保険、国民健康保険、福祉の業務に携わっており、市町村合併が行われ保健師が複数いるところではそれぞれの部署に配属されているようですが、水上村のように小さな村ではそうもいかず、私は全業務を行っています。

保健衛生業務というと母子保健・健康診査・精神保健とたくさんあります。

母子保健では妊婦への母子手帳交付の場が最初の出会いとなり、大切な時間である為、妊婦と保健師を知ることができるようにお話をしています。また、近隣の町と合同で沐浴実習や抱っここの仕方、オムツの換え方、夫へ妊婦体験の為のシュミレーター装着等の内容で両親学級を夜間に開催しています。

出生後には全戸に新生児訪問をし、計測や授乳状況、母親のメンタル面のチェックを行っています。数年前より産後うつへの取組が熊本県下でも行われており、医療機関でうつのアンケートをとり、訪問が必要である方へは本人の承諾をとってから市町村へ情報を提供し、それをもとに訪問し、その結果を医療機関へ返すという連携もとりはじめられています。また、最近、軽度の発達障害児が増

加しており、以前よりも保育所との情報交換もこまめに行っています。保育士からの情報をう



け、実際に保育の様子を見て発達検査や専門医の受診が必要な時には保護者へ説明し、訓練が必要と診断された場合は調整を行い紹介しています。

「予防型」が重要視されており、メタボリック症候群への取組や介護保険法の一部改正により筋力向上、口腔ケア、栄養改善、認知症予防の内容も始まりました。本村では筋力向上を行う為に「介護予防のための太極拳教室」を計画しました。参加希望者を待つのではなく各地区の老人会の集まりに行き筋力向上の必要性を説明しました。しかし、「何でこんな年になってから筋肉をつけないといけないのか!」と聞かれたので、実際に自分の体力を知ってもらおうと体力テストを行いました。その後、結果を返し参加を促してみるとやっと重い腰をあげてくださいました。

地域で働く保健師の対象者はそこに住む全住民であり、長期的にみていかなければなりません。個人ではなく家族という集団を見つめて、さまざまな職種の方との連携がとても大切だとつくづく感じています。これからいろんな事がたくさんあると思いますが信頼してもらえる村の保健師さんを目指し頑張りたいと思っています。

那須 理絵(看護学科1期生)

青春寮歌祭

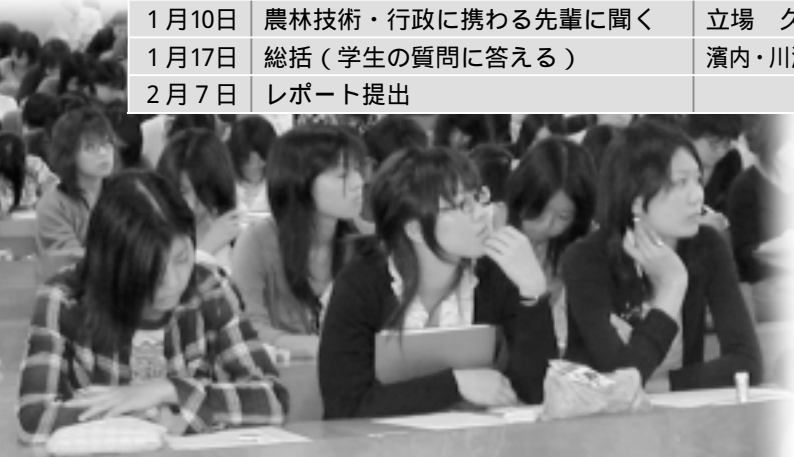
第14回佐賀県青春寮歌祭が11月25日に佐賀市交流センター「エスプラッツホール」で開催された。26大学・旧制高校のOB・OGが、校歌や寮歌を声高らかに歌いステージ狭しと踊った。各大学の校歌は、建学の精神を基に校風を見事に表現しており、聞いているだけで各大学のキャンパスにいるような気分させてくれた。また、参加者全員で寮歌・校歌の定番を歌うコーナーも設けられ、今回は一高の寮歌「嗚呼玉杯に」の他2曲を大合唱した。



キャリア デザイン (自己発見講座)



| 実施月日 | 内 容 | 担 当 者 |
|--------|------------------------|---------------|
| 10月4日 | ガイダンス(講義の進め方) | 濱内 繁義 他 |
| 10月11日 | キャリアデザインとは | 臼井 寛 |
| 10月18日 | 私のキャリアデザイン | 在学生(就職内定者) |
| 10月25日 | 開講に当たっての言葉、実業界経験の先輩に聞く | 久間 善郎 他 |
| 11月1日 | 実業界で働く先輩に聞く | 梅崎 正道 |
| 11月8日 | 教育界経験の先輩に聞く | 西山 武人 |
| 11月15日 | 教育界経験の先輩に聞く | 力武 暁 |
| 11月22日 | 産業界で働く先輩等に聞く | 北田 幸夫 |
| 11月29日 | 教育の世界で働く先輩等に聞く | 椿 忠彦 |
| 12月6日 | 保健福祉行政に携わる先輩等に聞く | 中里 栄介 |
| 12月13日 | 大学病院で働く先輩等に聞く | 矢川 信 |
| 12月20日 | 農林技術・行政に携わる先輩に聞く | 村岡 実 |
| 1月10日 | 農林技術・行政に携わる先輩に聞く | 立場 久雄 |
| 1月17日 | 総括(学生の質問に答える) | 濱内・川添・石本・石見 他 |
| 2月7日 | レポート提出 | |



大学及び同窓会の動き

- H18.7.1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.5 発行
- 11 佐大同窓会代表役員会
- 14 福岡地区支部会/ソラリアホテル
- 28 第19回「クリエイティブ21」/佐賀大学文化教育
学部部長 撫尾知信 氏
- 9.2 佐世保支部総会・懇親会/鯉太郎
- 12 佐大同窓会代表役員会
- 29 第20回「クリエイティブ21」/佐賀大学農学部
長 田代洋丞 氏
- 10.4 単位提供講座キャリアデザイン(自己発見講
座)開講(～H19.2.7まで)
- 6 大学創立3周年記念式典
- 7 鳥栖・三神支部総会・懇親会/ピアントス
- 10 佐大同窓会代表役員会
- 11 単位提供講座キャリアデザイン/講師 臼井 寛 氏
- 18 単位提供講座キャリアデザイン/在学生(就職
内定者5名)
- " 佐大同窓会秋期定例役員会
- 25 単位提供講座キャリアデザイン/講師 久間善郎 氏

- 31 佐賀大学産学官連携推進機構設立記念式典
- 11.1 単位提供講座キャリアデザイン/講師 梅崎正道 氏
- 7 佐大同窓会会報「楠の葉」No.6 編集会議
- 8 単位提供講座キャリアデザイン/講師 西山武人 氏
- 11 大分支部総会・懇親会/大分第一ホテル
- 14 東京支部総会・懇親会/神楽坂エミール
- 15 単位提供講座キャリアデザイン/講師 力武 暁 氏
- 18 筑後支部総会・懇親会/ランウィエール勝島
" 佐賀大学学園祭 ～19日まで
- 22 単位提供講座キャリアデザイン/講師 北田幸夫 氏
- 24 第21回「クリエイティブ21」/佐賀大学地域学
歴史文化研究センター長 宮島敬一 氏
- 25 第14回佐賀県青春寮歌祭/エスプラッツホール
- 29 単位提供講座キャリアデザイン/講師 椿 忠彦 氏
- 12.1 北九州支部総会・懇親会/北九州ハイツ
- 6 単位提供講座キャリアデザイン/講師 中里栄介 氏
- 7 佐大同窓会代表役員会・感謝状贈呈(田中幸男
氏・関本 優 氏前会長)
- 13 単位提供講座キャリアデザイン/講師 矢川 信 氏
- 20 単位提供講座キャリアデザイン/講師 村岡 実 氏